

平成23年度 名古屋市特別活動実践研究会調査部のまとめ

I はじめに

本年度の名古屋市特別活動実践研究会調査部は、「名古屋市特別活動実践研究会が進める『なごやとっかつ』の土台であったり、素地となったりし、教育全体にかかわる様々な情報を提供していく」ことを目的として活動してきました。

II 実践研調査部で収集した情報の内容

本年度各部員が持ち寄った資料や情報について、内容をもとにキーワードでまとめ、要旨を掲載しました。先生方の研究実践に役立てていただければと思います。

□キャリア教育

○「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」

・「職業観・勤労観の育成が求められるのか」「職業観・勤労観を育む教育の意義」「進路指導の何が問われているか」「職業観・勤労観を育む進路指導をどのように進めるか」について、キャリア教育推進の根本とともなる内容の報告書。キャリア教育を進める前の入門編として活用したい。

国立教育政策研究所生徒指導研究センターH14.11

○OECDにおける「キー・コンピテンシー」について（文部科学省）

・教育の成果と影響に関する情報への関心が高まり、「キー・コンピテンシー（主要能力）の特定と分析に伴うコンセプトを各国共通にする必要性が強調された。こうした中、OECDはプログラム「コンピテンシーの定義と選択」をスタート。「コンピテンシーの概念」「キー・コンピテンシーの定義」「キー・コンピテンシーの3つのカテゴリー」

- ①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力(個人と社会との相互関係)
- ②多様社会グループにおける人間関係形成能力(自己と他者の相互関係)
- ③自律的に行動する能力(個人の自律性と主体性)

文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/05111603/004.htm

ドミニク・S・ライチェン ローラ・H・サルガニク【編書】立田慶裕【監訳】「キー・コンピテンシー 国際標準の学力をめざして」明石書店

○「小学校における基礎的・汎用的能力の育成」

・小学校期（低学年・中学年・高学年）におけるキャリアの発達段階を踏まえ、各教科の学習指導要領解説をもとに、「基礎的・汎用的能力」を構成する【人間関係形成・社会形成能力】【自己理解・自己管理能力】【課題対応能力】【キャリアプランニング能力】別に、教科とそれぞれの能力の関係を例示している。また、地域や学校及び児童の特徴などに応じた実践例も紹介されている。

国立教育政策研究所「キャリア教育にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書 H23.3

○「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議中間取りまとめ」

・「なぜキャリア教育が必要なのか」「どうすれば学校でキャリア教育が行われるようになるのか」を柱に、キャリア教育における外部人材の積極的活用について取りまとめられている。

文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/07/attach/1308774.htm

○「第55回全国特別活動研究協議大会愛知豊橋大会」

・実践発表「望ましい勤労観を育てる学級活動」（第10分科会 特別活動におけるキャリア教育）

西福田小学校 荒木さとみ先生

○「キャリア教育を創る」(平成23年11月国立教育政策研究所)

・各学校で実践されているキャリア教育をより効果的な活動にしていくために、マネジメントサイクルとして教育活動にも有効なPDCAで考える。

P(実態→目標→課題設定→指導計画) D(洗い出し→つなぐ→検討→実践)

C(何を→いつ→どのように→適切な評価) A(指導・地域・組織に生かす)のどこに位置づけられるか、現在地をチェックしながら進める。

・「4領域8能力(人間関係形成能力…自他の理解能力, コミュニケーション能力)(情報活用能力…情報収集検索能力, 職業理解能力)(将来設計能力…役割把握認識能力, 計画実行能力)(意志決定能力…選択能力, 課題解決能力)から「基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力)(自己理解・自己管理能力)(課題対応能力)(キャリアプランニング能力)へ」

文部科学省ウェブサイト「キャリア教育(進路指導)」http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

文部科学省「キャリア教育の手引き」

○「社会への自立を促す教師力のあり方」

・いつの時代も食べるために、よりよく生きるために学び、働くという視点は一番大切である。にもかかわらず、社会的・職業的自立を促す教育がなされていない。義務教育段階から一貫した体系的な「キャリア教育」を実践することは、法的根拠もあり、学校教育として必要不可欠である。教師力は、「つながり」をキーワードに学校教育全体をキャリア教育的視点でとらえ、「学ぶこと」「働くこと」「生きること」が一体であることを意識させ、覚悟をもたせ、取り組ませる力にほかならない。

文教大学准教授 新井立夫先生 指導と評価2012年1月号

□学級集団づくり

○「子どもの社会的スキル横浜プログラム」(平成21年3月横浜市教育委員会)

・子どもの社会的スキル概念を、「自分づくりスキル・仲間づくりスキル(自己表現・共感配慮)・集団づくりスキル→18スキル」と位置づけ、子どもたち一人ひとりが健全な人格の持ち主として、豊かな自己実現を図り、個性の伸長と社会性の涵養を目指す。子どもたちが集団の中での学び合いや気付き合いを通して、対人関係能力を高め、さまざまな社会的スキルを獲得することができる学習活動のデザインへ。横浜プログラム Y-Pアセスメントシート

横浜市教育委員会HP

○「ガイダンスカリキュラムによる成長促進型生徒指導と準拠集団の形成」

・生徒指導提要では、「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」の三つの生徒指導モデルが示された。学校現場で注目される成長促進型生徒指導の一つがガイダンスカリキュラムである。これは、児童生徒が学校生活や社会生活で必要となる基礎的な知識やスキルの育成や個性の伸長を目的とする。ガイダンスカリキュラムの最大の教育効果は、学級の準拠集団化にある。信頼的で支持的な学級集団づくりは、すべての教育活動の基盤となる。

東京理科大学大学院教授 八並光俊先生 指導と評価2011年7月号

○「生徒指導提要について」(平成22年4月文部科学省)

・生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、子どもの人格の形成を図る上で大きな役割を担う。特別活動では、「所属する集団を、自分たちの力によって円滑に運営することを学ぶ」「集団生活の中でよりよい人間関係を築き、それぞれが個性や自己の能力を生かし、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ」「集団としての連帯意識を高め、集団(社会)の一員としての望ましい態度や行動の在り方を学ぶ」場として、生徒指導における側面を担う。

文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/houdou/22/04/1294538.htm

○「学校作りの在り方」(授業力向上のための努力点推進の在り方に関する研究)
・自校の問題を見つけ出し、教員集団でどう取り組んでいくか。努力点研究で、
教員の授業力向上を目指す。コミュニケーション能力の向上。
特別活動の要素→話し合い 事後検討会の工夫
努力点研究テーマ(他とよりよくかかわることのできるコミュニケーション能力の育成)において、校内研究組織の見直し・目指す授業の共有化・校内研究
授業の改善について
森孝西小学校

○「自尊感情や自己肯定感に関する研究」
・「自尊感情の傾向を適切に把握する方法の提示」「自尊感情の傾向を改善する
方向性の検討に活用できる資料の開発」「自尊感情や自尊感情を高める教育の
推進に活用できる指導資料の開発」についてのまとめ。
東京都教職員研修センター <http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>

○「学級目標を重視した学級経営の在り方」
・目標づくりだけでなく、個人の目標・集団の目標の両方の目標達成に向けて
将来の夢→キャリア 自己実現
比良西小学校

○「自己指導能力を高める学級活動の展開～よりよい自己決定を促す集団思考の指導の研究を中心に～」
・よりよい自己決定を促す集団思考の研究を中心にして、自己指導能力を高め
る学級活動の展開についての提案。学級活動の展開を「振り返り型(学級の実
態に対する気持ちを共有し解決策の話合い)」と「前向き型(めざす姿を共通
理解し到達するための具体的な行動を探る話合い)」に分類。授業実践後の振
り返りなどの手立てで、問題意識を高く保ち、自己指導能力が高められる。
川崎市総合教育センター <http://hawk02.keins.city.kawasaki.jp/kiyou/>

○「効力感を高める望ましい集団活動の育成～「話し合い活動」の逐語記録による授業分析～」
・特別活動の特質は自治的活動の育成にある。話し合い活動も自治的活動を育
てようとする場合の根幹である。これまでの学級活動の実践に多い「集団活動」
を意識したものから、子ども一人ひとりの内面に迫り、話し合い活動後の逐語
分析をもとに検証して、話し合い活動に視点をおく。
琉球大学教育学部教育実践研究指導センター紀要(2) 77-93 黒木義成先生

○「子ども熟議のすすめ」
・子どもたちの話し合いと実践で創り出す、よりよい学級・学校生活について特
別活動で育む「生きる力」について事例とともに紹介。
文部科学省

○「グループ協議と付箋を使った授業分析」
・授業検討会で作成した「話し合いチェックシート」を活用し、授業観察・付
箋を利用した事後検討会を行う。授業改善の視点をはっきりさせる。
「教育センターNAGOYA～子どもの未来のために～」2011. 10 No.58

□特別活動と道徳の関係

○「共生社会の担い手を育てる特別活動」(平成23年8月全特活にて杉田洋先生)
・「新学習指導要領」「改正教育基本法」から、「指導に生かす評価の充実・社
会参画の態度や自治的能力の育成・よりよい人間関係を築く態度の育成・道徳
的实践の指導の充実」「人間的な触れあいの追究」を大きなテーマにして講演
○「第55回全国特別活動研究協議大会愛知豊橋大会(第9分科会 特別活動と道徳)」
・実践発表「仲良く助け合って学級を楽しくする子どもの育成(名古屋・大手小)
・実践発表「豊かにつながり高まり合う学びの創造～豊かな心とよりよい人間
関係をはぐくむ特別活動～」(鳥取・稲葉山小)
・実践発表「絆を強め、心の居場所を見つけることができる子の育成～やまも
も班活動の実践を通して～」(豊橋・豊小)

○「平成23年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業」(平成24年2月)

・小学校特別活動

実践発表「《道徳的実践力から道徳的実践へ》よりよい生活や人間関係を築くために、本音で話し合い、本気で実践する児童の育成～豊かな心を育てる思いやりのスパイラル～」(長岡京市・神足小)

□言語活動

○「言語と体験を重視する教育」

・学習指導要領で重視されている「言語と体験」の背景や理由、「言語と体験」を重視した教育を推進するためには、学校・各教科でどのような工夫や配慮が必要か。「体験・活動重視と論理的な言語力の育成」「生きる力を貫く言語と体験」「評価研究から言葉と体験をとらえなおす」の項目で説明。

愛知教育大学大学院 教育実践研究科(教職大学院)佐藤洋一教授

「体験活動の充実」『教職研修2008年2月号』(教育開発研究所)

「言語力向上と体験活動の充実」『授業研究21 2008年8月号』(明治図書)

○「言語活動の充実に関する指導事例集」～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～

・第1章「言語活動の充実に関する基本的な考え方」第2章「言語の役割を踏まえた言語活動の充実」で、学習指導要領において言語活動の充実が重要とされるに至った経緯等が記述されている。第3章では「言語活動を充実させる指導と事例」が掲載されている。新学習指導要領スタートパック(平成23年4月8日付学校送付)より

□評価

○「指導に生かす評価方法の工夫・改善」

・特別活動の評価方法について、教師による観察のほか、質問紙法、チェックリストによる方法、児童自身の各種記録の活用などがある。これらの方法にどのような特徴があるのか。また、どのような評価の観点や評価場面に適しているかなどについて。文部科学省初等中等教育局教科調査官 杉田洋先生 道徳と特別活動2011年6月号

○「評価規準の作成ための参考資料」

・各学校において、評価規準を設定する際の参考資料として、学習指導要領の各教科の目標、学年(分野)別の目標及び内容、評価の観点及びその趣旨を踏まえ、評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例を示した参考資料。

国立教育政策研究所(平成22年11月)

○「評価方法等の工夫改善のための参考資料」

・各学校において、学習評価を進める際の参考として、単元(題材)の評価に関する事例に沿って、評価規準の設定を含めた指導と評価の計画、具体的な評価方法、評価対象とした具体的な児童の学私有滋養教について示した参考資料。

国立教育政策研究所(平成23年3月)

○「特別活動で子どもが変わる！新しい評価と指導のモデル集」

・特別活動の各内容の指導に生かす「指導と評価」の一体化の考え方が理解できる。特別活動における「評価」がどうあるべきかが、総論・学級活動(1)(2)・児童会活動・クラブ活動・学校行事、そして評価のために資料と、具体的にイラスト図解で分かりやすく編集されている。ねらいを4コマまんがで紹介したり、特別活動のテスト例や指導計画例も掲載されていたりする。

小学館(平成23年11月 監/杉田洋、編・著/福岡県小学校特別活動研究会)

※ なお、ここに示した資料情報についてのご質問等は、

名古屋市特別活動実践研究会調査部部长 福田小学校教頭 河田吉史

推進委員長 千年小学校 梅村一幸まで お問い合わせください。